

スマート農業勉強会 (2月7日 京都学園大学)

「スマート農業」について農業者と京都学園大学の学生と机を並べて勉強してきました。我が国農業の現場では、担い手の高齢化が急速に進み、労働力不足が深刻となっており、農作業における省力・軽労化を更に進めるとともに、新規就農者への栽培技術力の継承等が重要な課題となっています。他方、異業種では、ロボット技術や人工衛星を活用したリモートセンシング技術、クラウドシステムをはじめとしたICTの活用が進展しており、農業分野への活用が期待されています。このため、ロボット技術やICTを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業(スマート農業)を実現するため、スマート農業の将来像と実現に向けたロードマップやこれら技術の農業現場への速やかな導入に必要な方策を検討する「スマート農業の実現に向けた研究会」を設置されたそうです。

「スマート」とは、細い、痩せているという意味ですが、更に、かしこい、気が利く、情報化されたという意味らしい。

「ICT」とは、ICT(Information and Communication Technology)「情報通信技術」の略らしい。

(1)「農業分野におけるICT等の先進技術の導入について」

京都府農林水産技術センター企画室 技師 森川晃行氏

(2)「スマート農業が変える農業の未来について」

株式会社NTTドコモ ICT推進プロジェクトチームリーダー 平川喬氏

上記の2本の講義を聞いてきました。農業の未来が変わってくるかと予感させられる講演でした。これまで、農業は、百姓と言い、100の仕事(技術)が必要であると聞いています。そのような仕事をオール機械化、「ICT」技術を取り入れるとしたら、相当な投資が必要であり、農業収入との採算が合わないと考えさせられる講演でした。しかし、京丹波ほたるの里において、時代に乗り遅れることなく勉強し、取り入れられることがあれば、取り入れていくとの考えで今後も勉強していきたい。

「京の輝き」「WCS」作付けについて

酒米「京の輝き」は、契約栽培であり、契約数量に達しなければ、コシヒカリやキヌヒカリなどのお米を補充する必要があります。ほたるの里において、平成27年から作付けしておりますが、昨年(H30年)不作で、初めて、契約数量に満たずコシヒカリを6袋補充しました。今年度も研修会で国、京都府、京丹波町から交付金が助成されることに決定しました。結果、コシヒカリ、キヌヒカリより収入が多いとのことで今年も作付けをして行きたい。

「WCS」に関しても、交付金が出されるので昨年同様の面積を作付けして行きます。

大勢のご参加をお願いします。

3月3日(日) 視察研修

淡路希望食品(有)「2525ファーム」

洲本温泉 海月館

美しいふるさとをみんなの力で守っていこう!